

**今月の
トピックス****枝園忠彦先生(乳がんグループ代表者)にご寄稿いただきました**

本年1月より乳がんグループ代表者としてJCOG運営委員会にてご承認いただきました岡山大学病院・乳腺内分泌外科 枝園忠彦と申します。2015年より岩田広治先生の下で8年間グループ事務局としてグループ運営の多くを学ばせていただいたことを評価いただき前代表および乳がんグループの皆様よりご指名いただくこととなりました。大変光栄であるとともに、重責に身が引き締まる思いでございます。

私が乳がんグループに参加するきっかけは、国立がん研究センター中央病院で外科レジデントおよびがん専門修練医として研修をさせていただいたことでした。当時、田舎から出てきた純朴な外科レジデントでありました私は胃外科や大腸外科などをローテーションして世界の癌の外科研究を牽引する笹子先生・佐野先生そして森谷先生のご活躍を感嘆と畏怖の念を抱きながら拝見しておりました。ただ、それらの先生方の華々しい手術の技術と業績の中で、乳がんの手術は部分切除やセンチネルリンパ節生検といった縮小手術に向かっており、あたかも乳がんの手術は他の癌の手術とは一線を画しているかのように扱われることに違和感も感じておりました。他方、乳がんの薬物療法は抗HER2薬剤の登場や乳癌サブタイプの分類の明確化により、薬剤の効果が極めて高いがん種として早期乳がんに対しても薬物療法(特に術前化学療法)が広く行われ始め、薬物療法だけでがんを治すこともできるのではないかとという機運も高まっておりました。(残念ながらその急先鋒的立場であった、渡辺先生はちょうど私と入れ違いで国立がん研究センターからご転勤されました)がん治療における外科手術の意義そして今後のがん治療の方向性に大変興味を持つこととなりました。当初、どんな手術もできる一般外科医を目指し、国立がん研究センター中央病院を受験し、大学院の研究を乳癌細胞株で行ったという理由のみで試験の際「専門は乳腺外科」と言った私にとっては、こういった国立がん研究センターでの経験やJCOG研究者の方々のご活躍と乳がん診療の大きな変化という背景が、乳がん診療を専門として頑張ってみようと思った契機でした。

ただ、その気持ちに反してJCOG乳がんグループの当時の状況は決して順風ではございませんでした。世界の乳がん研究は薬物の試験が次々と行われる中で、JCOGでは新規薬剤の試験を柔軟に行うことが難しいことなどから、乳腺内科の先生方がJCOG乳がんグループと距離を置き始めており、グループ自体の存在意義が問われる状況でした。そんな中で、がん専門修練医であった私が、青儀代表のご推挙によりグループで約10年ぶりに行うJCOG1017の研究事務局を務めることとなりました。そして奇しくもそれ以後現在までずっとJCOGでの活動が私の生活の一部となりました。



枝園忠彦

岩田代表となつてからは、データセンター対策を夜な夜な相談しながらJCOG1017試験の登録を促進し、過去にJCOGの他のグループにはなかった新しい臨床試験(JCOG1204術後インテンシブフォローアップ、JCOG1505 非浸潤がん非切除、JCOG1607 高齢転移乳癌初期治療、JCOG1709A

willingness to pay、JCOG1806 術前化学療法著効例非切除放射線治療)を次々と作っていく作業は、本当にわくわくする楽しい時間でした。毎週末会議に出張に出たり、コロナ後は日常業務後に毎日行われるweb会議を毎日行ったりするのを見て「忙しいですね」と憐れまれることがございますが、実際は全く逆でその会議があるからそれ以外の仕事を頑張れるほど、楽しい時間でありました。

これから、JCOGグループ代表者として乳がんグループをまとめていくにあたって、そんな私と同じような気落ちで会議に参加してくれる人が一人でも多くなるように、工夫していきたいと思ひます。

乳がんは世界のがん研究においては常に先陣を切って治療や薬剤開発がなされている領域です。ただ、残念ながらその最先端の舞台で日本の研究者がみられることはあまりありません。2015年に井上先生より引き継いで乳がんグループの事務局になった際、当時のビッグ3と言われた 胃がんグループ・大腸がんグループ・肺がん外科グループに少しでも近づいてJCOG内でプレゼンスを示すことを目標といたしました。その目標はある程度達成できたと思ひます。今回グループ代表者となり、これからは①JCOG乳がんグループのプレゼンスを世界で示すこと、②大きな国際学会では必ずJCOG試験の結果が(できれば上級演題として)発表され、いつもその結果が注目されていること、を目標として頑張りたいと思ひます。

最後になりましたが、このようなチャンスをいただきました青儀先生そして理想のボスであり憧れである岩田先生、そしてJCOG乳がんグループを支えていただいている参加施設の皆様には感謝以外ございません。そして福田先生・柴田先生をはじめJCOGデータセンターの皆様には、がんセンターレジデント時代より臨床試験の基礎からご教授いただき本当にありがとうございました。皆様方の熱いご指導がなければ、その後の人生は全く別のものであったと思ひます。立場は変わりましたが、出来の悪い教え子の一人でございますので引き続きご指導よろしくお願ひいたします。

これからも乳がんグループの皆様とワクワクする試験を考えてまいります。皆様、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

岡山大学病院・乳腺内分泌外科 枝園忠彦

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね!

Twitter ユーザーネーム: @JCOG_official URL: https://twitter.com/JCOG_official/

Facebook ページ URL: https://www.facebook.com/JCOG_official

JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。

JCOG骨軟部腫瘍グループでは、新規臨床試験としてJCOG2214INT試験「高リスク後腹膜肉腫に対する術前補助化学療法の意義に関するランダム化比較第III相試験 (STRASS 2)」を2023年12月より開始いたしました。JCOG2214INT試験はEORTC(ヨーロッパ)が主導し、米国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドも参加する国際共同試験となります。

後腹膜肉腫は後腹膜領域に発生する軟部肉腫の総称であり、軟部肉腫全体の約15%を占めます。組織型としては高分化型/脱分化型脂肪肉腫が最も多く、次いで平滑筋肉腫が挙げられ、この2種で後腹膜肉腫全体の8割以上を占めています。脱分化型脂肪肉腫の組織学的悪性度Grade 3および平滑筋肉腫では、5年無遠隔転移生存割合は約50%程度、5年全生存割合も55-60%と報告されており、依然として難治性腫瘍であると言えます。

JCOG2214INT試験は、これら高リスク後腹膜肉腫において、標準治療である手術単独療法と、試験治療である術前補助化学療法と手術療法との比較を、無病生存期間を主要評価項目として実施する試験です。2026年までに合計250人の登録を予定しており、これまでに75人が登録されています。日本からは30人の登録を目標としています。EORTCからはさらに多くの登録を期待されています。

またJCOG2214INT試験では、3つの附随研究が予定されており、腫瘍組織や血液検体の共有を行います。さらには、JCOG2214INT試験の適格規準を満たさなかったり、患者さんの意向により試験に登録されなかった患者さんの観察研究が並行して行われます。現在日本から、これらの附随研究の提案の準備を進めております。



研究代表者
尾崎敏文



研究事務局
岩田慎太郎

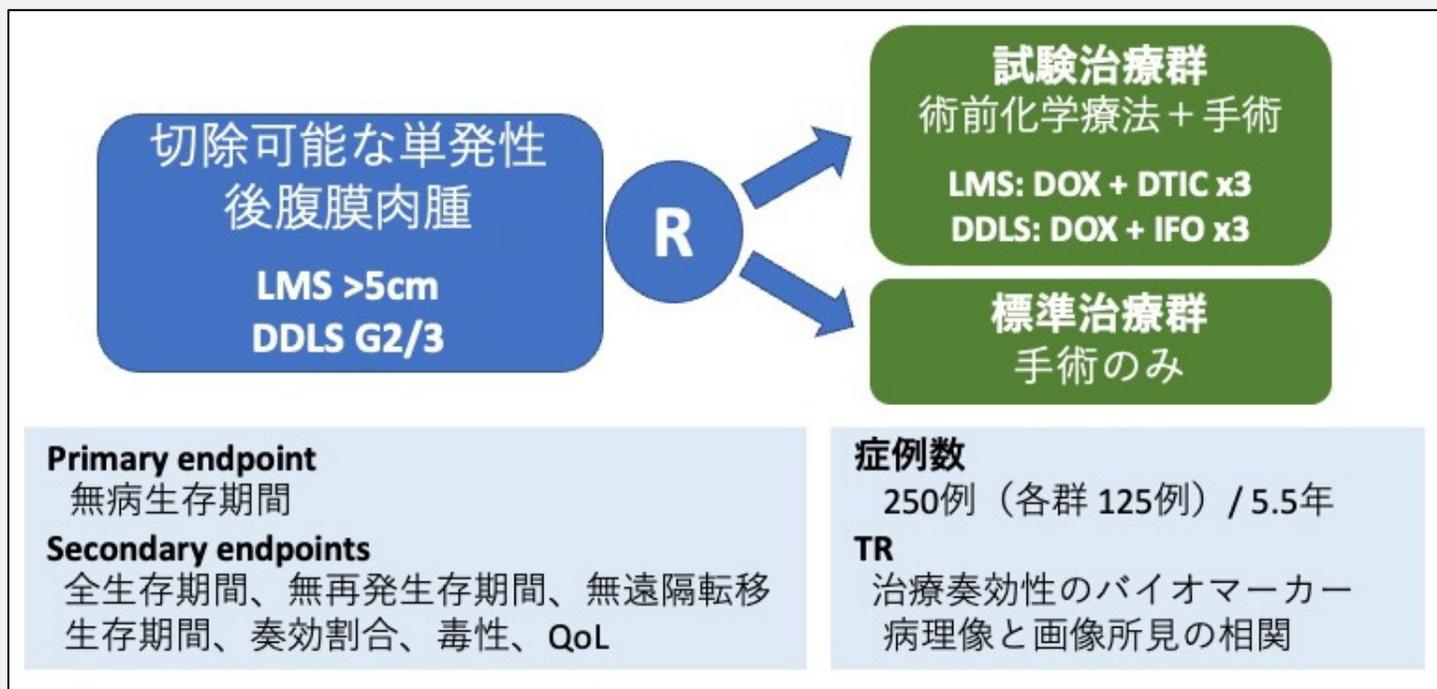


EORTC PI
A. Gronchi

JCOG2214INT試験はJCOGとして初めての特定臨床研究での国際共同研究への参画となることから、その準備段階においては、規要件の確認、JCOG-EORTC間での責任分担表の確定と契約、プロトコルなど各種文書の日本語訳、CRB申請および対応、EORTCへの参加施設登録とEDC登録といった多くのプロセスを経る必要がありました。その過程において、JCOGデータセンター・運営事務局の皆様方には多大なるご支援、ご指導を頂戴いたしました。これらの支援無くしては試験開始に辿り着くことは困難であり、改めまして心より御礼申し上げます。またJCOG2214INT試験の説明文書に関しましては、JCOG骨軟部腫瘍グループ患者・医療者意見交換会での患者団体の皆様から貴重なご意見を頂くことで完成いたしました。心より御礼申し上げます。

JCOG2214INT試験の実施には、JCOG骨軟部腫瘍グループだけでなく、後腹膜肉腫の診療に携わる泌尿器科腫瘍・大腸がん・肝胆膵・胃がんの各グループの先生方との連携が必要不可欠です。関係の皆様方には何卒ご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

JCOG2214INT JCOG側 研究代表者 尾崎 敏文
JCOG2214INT JCOG側 研究事務局 岩田 慎太郎



JCOG研究の論文公表



- ◇ **骨軟部グループ JCOG1306S2 杉田 真太郎先生**
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38391203/>
 Prognostic evaluation of the Ki-67 labeling system in histological grading of non-small round cell sarcoma: a supplementary analysis of a randomized controlled trial, JCOG1306, Japanese Journal of Clinical Oncology, 2024 Feb 22, Online ahead of print
- ◇ **肝胆膵グループ JCOG2202デザインペーパー 池永 直樹先生**
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38373949/>
 A multi-institutional randomized phase III study comparing minimally invasive distal pancreatectomy versus open distal pancreatectomy for pancreatic cancer; Japan Clinical Oncology Group study JCOG2202 (LAPAN study), BMC Cancer, 2024 Feb 19, Online ahead of print
- ◇ **リンパ腫グループ JCOG0601S2 島田 和之先生**
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38280061/>
 Secondary central nervous system involvement in patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with rituximab combined CHOP therapy – a supplementary analysis of JCOG0601, Annals of Hematology, 2024 Jan 27, Online ahead of print
- ◇ **胃がんグループ JCOG0912S3 瀧 雄介先生**
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38290246/>
 Risk factors for abdominal surgical infectious complications after distal gastrectomy for gastric cancer: A post-hoc analysis of a randomized controlled trial (JCOG0912), European Journal of Surgical Oncology, 2024 Jan 24, Online ahead of print

グループごとと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	12月	1月	2月	合計
大腸がん	69	77	80	226
肺がん外科	44	49	44	137
胃がん	37	48	48	133
肝胆膵	31	40	35	106
肺がん内科	22	19	23	64
食道がん	21	30	26	77
リンパ腫	14	19	16	49
放射線治療	7	14	4	25
頭頸部がん	9	5	9	23
泌尿器科腫瘍	18	5	5	28
消化器内視鏡	8	8	10	32
脳腫瘍	8	14	8	24
乳がん	6	5	2	13
皮膚腫瘍	0	5	2	7
骨軟部腫瘍	1	5	1	7
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	295	343	313	951

担当医別月間登録数



- ◇ **肺がん内科グループ (月間登録数: 2)**
藤原 豊先生 / 愛知県がんセンター
- ◇ **肺がん外科グループ (月間登録数: 4)**
宮田義浩先生 / 広島大学病院
- ◇ **胃がんグループ (月間登録数: 6)**
和田剛幸先生 / 国立がん研究センター中央病院
- ◇ **食道がんグループ (月間登録数: 3)**
佐藤和磨先生 / 国立がん研究センター東病院
- ◇ **リンパ腫グループ (月間登録数: 2)**
高山信之先生 / 杏林大学医学部
宮下 要先生 / 国立病院機構九州がんセンター
堀善 和先生 / 和歌山県立医科大学
- ◇ **大腸がんグループ (月間登録数: 5)**
池田 聡先生 / 県立広島病院
- ◇ **肝胆膵グループ (月間登録数: 2)**
杉町圭史先生 / 国立病院機構九州がんセンター
青木修一先生 / 東北大学病院
廣野誠子先生 / 兵庫医科大学
渡辺 徹先生 / 富山大学附属病院
亀井敬子先生 / 近畿大学病院
- ◇ **消化器内視鏡グループ (月間登録数: 2)**
福永周生先生 / 大阪公立大学医学部附属病院

(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)



JCOGデータセンターより

● 2024年2月の登録例は313例でした

今月も登録中の試験のある全てのグループから多くの登録をいただきました。

